高教組HPにもUPしています。「兵庫高教組」検索

兵高教組　2026年7月3日
調査情報　6号

兵庫県高等学校教職員組合調査部
TEL：078-341-6745　FAX：078-351-3185
URL：http://www.hyogo-kokyoso.com
mail：honbu@hyogo-kokyoso.com

N-E.X.T.ハイスクール構想改革先導拠点校

兵庫県では姫路工業高校のみ

当初の予定では6月中旬に発表されることになっていたN-E.X.T.ハイスクール構想の改革先導拠点校（指定校）の採択結果ですが、文科省は6月30日に発表し、HPにアップしました。全国で新たに、69組織（学校でない組織がある）が指定され、すでに発表されている6校に加えて74校と1組織になりました。兵庫県では改革先導拠点校に採択されたのは県立姫路工業高校のみ。同時に申請していた普通科高校の3校は採択されませんでした。報道では今回の申請で採択されたのは4割と報じられました。

上限２０億円！　公募なく、県内の選考経過は謎

この構想の軸となるのは、以前の調査情報でお伝えした3類型の高校です。このうち、姫路工業高校は①のアドバンスト・エッセンシャルワーカー等育成支援の類型です。文科省のHPには姫路工業高校の事業名が明記されていますが、それによれば「デジタル技術を身に付け未来社会で活躍するものづくり育成支援」というもの。予算額も明記されており、何と上限20億円です。3年間で使い切ることになります。短期間で巨額な予算をともなう計画を立てることについては同校の担当者の苦労は並々ならないものと想像できます。ただ、県内にある公立の工業（系）高校は13校です。事業名だけで判断できないとはいえ、姫路工業高校しかできないという事業ではないと感じられる関係者は多いのではないでしょうか。文科省が設定した申請期間が短いという理由があるとはいえ、公募がなかったわけですから、県教委には選定された理由の説明責任があると思います。

特定の高校だけに巨額の予算と責任
それでいいのでしょうか

そもそも今回のN-E.X.T.ハイスクール構想は、高校を産業界が望む人材育成の場にしようとする高校教育の抜本的な改革方針（グランド・デザイン）として打ち出されたものです。その狙いについて批判的に学ぶことが極めて重要です。高教組は8月29日に全県分会代表者会議をオンライン併用で開催し、全教の大島教文局長を招いて、学習会を開催します。

ただ、いかなる改革であれ、県下に百数十校ある高校のうち、3、4校だけを選んで巨額の予算を出し、その巨額の予算に見合うだけの責任をその学校の教職員に担わせるという手法そのものが明らかに間違っていると思います。数パーセントの高校だけが「先進的な」とりくみをしただけで、残りの95%以上の高校の教育が劇的に変化するなどということはありえないでしょう。また、20億円を受け取った学校の教職員に対して劇的な改革を先導するという責務を担わすということになるのなら、それは明らかに過重な負担といえます。

情報・ご意見をお寄せください。

先日、県教委高校教育課の担当者とこのN-E.X.Tハイスクール構想について懇談を行ったのですが、拠点校の教職員の過大な負担が懸念されるということでは一致し、担当者は「教職員に過大な負担がかからないようにする」と回答しました。

今回採択されなかった3校については再申請もあるということのようです。担当者が言うように教職員に過大な負担になることはないのか、拠点校の姫路工業高校、これからまだ申請をすることになる3校の皆さん、情報をお知らせください。また、この構想に関する皆さんのご意見・情報もお寄せください。連絡先は上記にあるとおりです。

少しでも労働条件の改善を　そのためにあなたも高教組へ！